

国語

問題用紙

[試験時間：50分、配点：100点]

（受験上の注意）

- ◎ 開始の合図があるまで開けてはいけません。
- ◎ この問題用紙は全部で16ページあり、解答用紙は問題用紙の中に入っています。
- ◎ 答えはすべて解答用紙にはっきり記入すること。
- ◎ 解答用紙には、机の番号と受験番号と名前を忘れずに記入しましょう。
- ◎ 声を出して読んではいけません。
- ◎ 問いのなかで字数に指定のあるときは、特に指示がない限り、句読点などもその字数にふくめます。
- ◎ 終わりの合図があったら解答用紙だけを提出してください。
問題用紙は持ち帰ること。

帝京中学校

第1回 午前

国語 問題用紙

【1】次のあらすじと文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

家庭の都合で黒部舞奈は父の故郷である埼玉県大里郡寄居町に引っ越してきた。忙しく引っ越し作業を続ける父は私を気づかい、「自然が多くて気持ちいいぞ」と気分転換に散歩をする。舞奈は父を置いて自分一人だけで出かけるのも気が引けたが父の言葉を素直に聞き、祖父の用意してくれた自転車で新居の周辺を散歩することにした。

「あつ」

思わず声が漏れる。ペダルを踏む足を止め、舞奈はその光景を凝視した。流線形の小舟が、緩やかな川の流れを急かすように突き進んでいる。その上に、一人の少女の姿があった。鍔の突き出たキヤップを被り、彼女は一心不乱に棒状の何かを操作している。ボートを漕ぐときに使うオールに似たアレだ。さらにその姿をよく見ようと舞奈がガードレールから身を乗り出した途端、少女はあっさりと漕ぐのを止めた。シートの下を1と探り、小舟から。ツトボトルを取り出している。休憩時間だろうか。好奇心を抑えきれず、舞奈はその場で大きく叫んだ。

「何やつてるんですかー」

驚いたのか、少女は勢いよく顔を上げた。

2

と周囲を見回し、それから不思議そうに自

分の顔を指さしている。その唇が 3 と開閉したのは分かつたが、生憎声までは聞き取れなかつた。深く息を吸い込み、舞奈は再び叫ぶ。

「聞こえないですー」

少女が困つたように頬を搔いている。どうやらこちらの声は届いているらしい。じつと俯いていた彼女だつたが、唐突にキヤップを脱ぐと、呼び寄せる仕草で手前側に大きく腕を振つた。これは近付いていいことだらうか。舞奈は空いたスペースに自転車を寄せると、そのまま川へ繋がる斜面を駆け下りた。堤防には若草が生い茂つており、歩を進める度に踏みつけたタンポポの綿毛が散つた。

「すごい、ボートだ」

近くで見る小舟は、異様なほどに細長かつた。純白の船体は先端が鋭く尖つていて、少女がムツとした顔で言い返した。

「ボートじやなくて、カヌーね」

「カヌー？」

「そう。全く別物だから」

② フンと鼻を鳴らし、少女は水面から小舟を引き上げた。キヤンプで使う簡易椅子にも似たスタン

ドに、彼女は軽々とした動きでカヌーを置く。すらりと伸びた長い手足に、舞奈よりも一回りほど小さい顔。その艶やかな黒髪は、輪郭に沿うようにして切り揃えられている。モデルさんみたいだ、と真っ先に思つた。長い睫毛に縁取られた双眸が、じつと舞奈を見下ろす。恥ずかしくなり、舞奈は自身の手の甲で頬を拭つた。

「すみません、いきなり話し掛けちゃつて」

「それはいいけど……どこの中学校の子？」

予想外の質問に、舞奈は目を丸くした。手を勢いよく左右に振り、慌てて否定する。

「あの、中学生じゃないです。私、明日から高校生なんで」

「ウソ、同い年？」

心底驚いたという顔で、少女は自身の口許くちもとを手で覆おおつた。確かに、高身長な彼女から見れば、小柄こがらな舞奈は年下に見えるかも知れない。キヤップを被り直し、少女は両目を弧こに細めた。

「ダメなんだつたら敬語じやなくていいよ。つていうか、どこの高校なの？」

「ながとろ高校」

「すごい、私も」

そう言つて、少女は嬉うれしそうに口端こうたんを釣り上げた。唇の隙間すきまから覗のぞく白い歯が、少しだけ眩まぶしい。

舞奈は彼女の顔を見上げると、心なしか胸を張つた。

「私ね、今日からこっちに引っ越としてきましたの」

「へえー。引っ越としてどこから？」

「豊島区としま」

「どこそれ？」

「池袋の近くいけぶくろ」

「あー、なるほど。随分都会から來たんだね」

少女の指先が、先ほどからファスナーの上で行つたり来たりを繰り返している。薄うすいTシャツに、黒いハーフパンツ。ごくありふれた軽装の上に、彼女は蛍光ブルーのライフジイケットを装着していた。

「こらへんってなんにもないでしよう？」

退屈じやない？」

「まだ分かんない。今日が一日目だから」

「絶対すぐ飽きるよ、娯楽が少ないからさ。早く十六歳になりたい」

「なんで？」

「なんでって、十六になつたらバイクの免許めんきょとれるじゃん。どこに行くにも自転車つて大変だよ。高校も自転車だと結構遠いし」

「えつ、学校まで自転車で行くつもりなの？」電車があるのに」

舞奈の問いに、少女は顔を逸らした。その視線の先にあるのは一艇のカヌーだ。

ながとろ高校はその名前の通り、秩父郡長瀬町にある私立高校だ。偏差値は五十一、普通科の他に農業科もあるのが特徴で、最寄り駅は寄居駅から三つ先にある野上駅。のがみここからながとろ高校までは約七キロある、電車で通う方がよっぽど楽だろう。

「電車、嫌いなの」

腕を伸ばしながら、少女は何でもないような^③口ぶりで答える。ハーフパンツの裾から覗くふくらはぎは、舞奈のそれと違ちがいしつかりとした筋肉に覆われていた。

「それに、意外にあつという間に着くよ。三、四十分くらい。タイミングによつては電車を待つよりよっぽど早いし。あと、単純に早いと気持ちいい」

「本当に？」

「私的には、ホント」

「じゃあ、私も学校まで自転車で通おうかな」

そしたら電車代も浮くし、と続けた舞奈に、^④少女はぽかんと口を開けた。じわじわと目尻を下

げ、彼女は弾けるような笑い声を漏らす。その人差し指が、舞奈の胸へと向けられた。

「正気？」

「え、変なこと言つたかな」

「だつて、見ず知らずのやつの言う事を本気にするから」

彼女は未だケラケラ笑い続けている。その台詞^{せりふ}の意味が理解できず、舞奈は□4を傾げた。

「見ず知らずじやないよ、友達でしよう？」

少女がピタリと笑うのを止める。その指先が、今度は自分の鼻先に突き付けられた。

「友達つて、私のこと？」

「そうじやないの？ だつて、同じ高校に行くんでしょ？」

「でも、名前も知らないのに」

「黒部舞奈だよ。ほら、これで問題ない」

「いや、そういう問題じやなくてね、」

「名前は？」

「は？ 何が？」

「だから、名前教えてよ」

自然と手が伸び、少女のTシャツの裾^{つか}を掴んでいた。^⑥真つすぐに彼女の顔を見上げると、その喉^{のど}がぎこちなく上下するのが見える。鐸^{さそき}が日光を遮^{ささえ}り、少女の顔を影色^{かげいろ}に塗り潰^{つぶ}した。そこに浮かぶ二つの目が、ぱちりと一つ瞬^{まばた}きを落とす。観念したように、彼女は口を開いた。

「……湧別^{ゆうべつ}恵梨香^{えりか}」

「オッケー、恵梨香ね。ほら、これで問題なく友達だよ」

ひらりと手を振ると、恵梨香は呆れたように肩を竦めた。前髪に隠された眉は、きっと顰められている。

「黒部さんはいつもそうなの？」

「舞奈でいいよ。苗字で呼ばれるの、変な感じするから」

⑦「あー……分かった。舞奈ね、舞奈」

自身の名が呼ばれたことに、舞奈は込み上げる笑みを我慢できなかつた。何笑つてんの、と恵梨香が訝しげにこちらを見る。にんまりと口角を上げ、舞奈は素直に自身の心情を口にした。

「私、こつちに友達とかいないから。だから、今日こうやつて恵梨香と会えて良かつた。明日、同じクラスになるといいねえ」

「ま、普通科は二クラスしかないから、可能性は五〇パーセントだよ」

そう言つて、恵梨香は転がる小石を軽く蹴つた。

(『君と漕ぐ ながとろ高校カヌーブ』武田綾乃・新潮文庫)

問1

1～3には、「ドキドキ」のようなくり返す言葉が入ります。ここにあてはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

「ア ガタガタ イ パクパク ウ トントン エ キヨロキヨロ オ ゴソゴソ」

問2

4にあてはまる言葉を漢字1字で答えなさい。

問3

――①「一心不乱」とあります。この四字熟語の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- 「ア 一つのことを考えすぎて、不自然な態度になってしまふさま。
- イ 心が乱れすぎて、全てのこととに集中できないさま。
- ウ 他のことに気が向いてしまい、一つのことがおろそかになるさま。
- エ 一つのことに集中して、他のものに注意をそらさないさま。

問4

——②「ファンと鼻を鳴らし」とあります。少女はなぜこのような行動を取ったのですか。その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア この辺りではカヌーが移動手段であるのに舞奈はそんなことも知らなかつたから。
イ 少女が乗るカヌーはふつうのカヌーとはちがうものだと分かつていなかつたから。
ウ 舞奈がボートとカヌーが全くちがうものだということを理解していなかつたから。
エ 少女の練習を途中で止めた舞奈に対していらだちを覚えたから。

問5

——③「口ぶり」とあります。ここでの「口ぶり」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

「ア 口の形 イ 音程 ウ 声の大きさ エ 言い方」

問6 ——④「少女はぽかんと口を開けた」とありますが、少女はなぜこのような表情になつたのですか。その理由を説明しなさい。

問7 ——⑤「見ず知らずじゃないよ、友達でしょう」とありますが、舞奈が少女を友達だと考えている理由はどうなことですか。「——こと。」という形に続くように本文中から7字でぬき出して答えなさい。

——⑥「真っすぐに彼女の顔を見上げると、その喉がぎこちなく上下するのが見える」とありますが、この時少女はどのような状態にあるといえますか。それを説明した次の文の□にあてはまる言葉として最も適当なものを後の語群の中から一つ選び、記号で答えなさい。

見ず知らずの子に名前を教えて友達になることに対する□している。

「ア 安心 イ 満足 ウ 感動 エ 緊張」

——⑦「自身の名が呼ばれたことに、舞奈は込み上げる笑みを我慢できなかつた」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア モデルのような恵梨香と知り合いになると高校生活がはなやかになるとを考えているから。
- イ 偶然出会った恵梨香と友達になることができてうれしく思っているから。
- ウ 恵梨香が舞奈の意見に同意してくれたことに感心しているから。
- エ 都会から引っ越してきたことを自慢できてほこらしく思っているから。

【2】次の文章は、本を編集的に読むことについて書かれています。編集とは、たくさんの情報と社会や自分のために上手に使えるようにすることです。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

じつは本屋で本を手にとつて、パラ・パラ見ていたり、背表紙をながめていたり、本屋さんで平らに積んである本の表紙や^{*}帯の文句を読んでいるときに、読書はすでにはじまっているのです。わたしはこれを「読前の読書」(読む前の読書)と名づけています。

というのも、本にはいろいろな情報がいっぱいまつていて、その一部は本のタイトルにもサブタイトルにも、表紙のデザインにも、それから本にまいてある帯にも^①にじみ出ているのです。

もつと大事な内容(コンテンツ)が出ているのは、目次です。目次は小説やマンガをのぞいて、その本のあらましや大事な情報をとても上手にまとめてある言葉の一覧表です。その本のメニューです。これをつくるのは著者のばあいも多いのですが、それをちゃんと仕上げるのは編集さんです。

つまり目次は、最初の読者である著者と編集者が一人して、自信をもつてとりくんでいるその本の^{*}エッセンスなのです。それが言葉の一覧表として示してあるのです。その目次はせいぜい一、二ページとか四、五ページで、それぞれ短い言葉(フレーズ)でできています。これはあつというまに読みます。

だから、わたしは本を買う前に、ちよつとでもいいから目次の言葉を見ることがあります。
これを「目次読書法」といいます。目次を見て、その中身を^aソウゾウしてから読みはじめるのと、ただやみくもに本の1ページ目から読むのとでは、かくだんの差が出るからです。

※帯：本の上に巻いてある宣伝文句が書かれた紙。

※エッセンス：本質的なもの。

※ 読書は言葉が好きになればおもしろくなるといいましたが、それは目次の言葉からはじまるということですね。

こうして一冊の本を買ってきましたとしましょう。すでに「読前の読書」ははじまっていたわけですよ。で、これからはいわゆる読書で、わたしの言葉でいえば「読中の読書」（本を読む途中の読書）です。

ここでおすすめしたいのは、本を読みながらマーキングすることです。マーキングというのは本の中の文章や言葉に「しるし」をつけることで、気になる箇所に線を引いたり、重要そうな言葉を線でかこんだりするのです。

このとき、目次で見た言葉と同じ言葉や似た言葉にマーキングができるようになれば③しめたものです。なぜなら、そのようなマーキングは著者や編集者がその本のねらいをつけたところとかきなつていくからです。つまり、本を編集的に読んでいることになるからです。

これは「マーキング読書法」というものです。

わたしたちは本を読みながらたくさんの中の言葉をアタマに入れようとするのですが、すぐにぐちやぐちになりますね。でも、読んでいるときはその言葉が気になっていたのです。マーキングは、そういうアタマで気になつた言葉を本の中に「しるし」に変えていこうということなのです。それを本を読んでいるさいちゅうにやつてしまふのです。おもしろそうでしょう。

（中略）

ということで、これで一冊の本が読み終わりました。ではそのあと、みんなはどうしています

※ 読書は言葉がすきになればおもしろくなるといいましたが、この問題文の前の部分に「いろいろな本を読めるようになることは、言葉に強くなることです。読書が好きになれば、言葉も好きになります。逆に、言葉が好きになれば、読書もうんとおもろくなれるのです。」とある。

か？ほつたらかしになつていませんか？これはね、ダメです。読みおわつたら、五分でも一〇分でもいいから、読んだことを思い出してください。そうすると、自分がたくさん**の**言葉をツウカしてきたことが、パツパツパツとかたまりになつてとんでいくように、よみがえるはずです。アタマの中の言葉たちと本の中の言葉たちが、サツカーノゲームをするように、動きまわっているのが見えるはずです。これをしたか、しなかつたかでは、読書の充実度にまたまた差が出ます。

できれば、ヨクジツcとか三日後とか一ヶ月後に、もう一度、思い出すともつとすばらしい。すばらしいサツカーノシアイdのことを何度も思い出すようにな。ただし、このときは本をペラペラとめくつていつてもいいのです。そうすると自分がマーキングしていた箇所とともに、その内容が“言葉のゲーム”のようにダイナミックにうき上がります。

もちろん読書ノートをつけるとか、感想を日記につけておくこともいい方法ですが、そこまでも少なくともマーキングのついた本をもう一度、ペラペラと見るだけでじゅうぶんだと思います。これがアタマとカラダをつなげて本の中身をしみこませてくれるからです。

これらは、「読後の読書」（読んだとの読書）です。これでわかるように、⁽⁴⁾本を読むとは「読前・読中・読後」にわたつて最低でも三度は本とつきあうということなんですね。

さあ、これでいっぱしに本が読めるようになりました。でも、本を編集的に読むというのは、これだけではありません。何冊もの本をつなげて読むとか、くらべて読むとか、かさねて読むということもできるのです。

でも、みんなは一冊の本を読むのだってたいへんなのに、何冊もの本なんて読めないとと思うでしょう。それに、本を読みはじめると、すぐに眠くなるとねむいう人もいますね。それから、本を読むよ

りカブトムシをとつてきたいとか、野球をしたいとか、お腹がへつたとか、世界遺産のテレビをもっと見たいなどと思うかもしません。

そういうときがあつてもいつこうにかまいません。おおいにカブトムシをとつたり、野球をしてみましょう。眠くなつたら寝てしまいましょう。けれどもときにはカブトムシの本、野球の本、世界遺産の本を買つたり、図書館で借りたりして、机のうえに並べてみると、部屋の本棚ほんだなに入れておくことも大事です。

⑤ そのとき、ほかの本もまぜてみましょう。そうすることでカブトムシについてのネッチャウの力がほかの本にもとび火して、新しい本の情報もカブトムシのように好きになるかもしれないのです。そういうことをしていけば、一冊の本を読むときにも、いろいろイメージがふくらむようになります。

情報編集の力は、本の中の言葉とつきあう力といろいろ関係しています。編集とは「つながりの発見」であり、「関係の発見」をしていくことです。本を読むことは、その「つながり」や「関係」についての勘かんを、おおいにきたえてくれるのです。

本を読むコツは「役にたつ一冊を選んで読もう」なんて思わないで、諸君の関心のあるものを、自分の情報レパートリーの中どんどん見ていくことなんです。役に立つかどうかなんて、あとでわかることです。

(『未来のおとなへ語るわたしが情報について語るなら』(松岡正剛・ポプラ社)

問1 a → e のカタカナを漢字に直しなさい。

- 〔 a ソウゾウ b ツウカ c ヨクジツ d シアイ e ネツチュウ 〕

問2 ————— ①「にじみ出でいる」、③「しめたもの」とありますが、ここで意味として最も適当なものを次のなかからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

①「にじみ出でいる」

- ア たくさんあらわれている。
イ 自然とあらわれている。
ウ いっぱい飛び出でている。
エ いろんな所に広がっている。

③「しめたもの」

- ア 自分の努力が結果に結びつくこと。
イ 予想外に良い結果となること。
ウ 期待以上の結果になること。
エ 望みどおりの結果になること。

問3 ————— ②「だから、わたしは本を買う前に、ちょっとでもいいから目次の言葉を見ることをすすめています」

とあります。筆者がそうする理由を説明しなさい。

④「本を読むとは『読前・読中・読後』にわたって最低でも三度は本とつきあうということ」とあります
が、これについて、次の問いに答えなさい。

(1) 「読前」、「読中」で筆者がすすめている本の読み方を、何と表現していますか。それぞれ答えなさい。

(2) 「読後」に本とつきあうとは、具体的にどうすることですか。最も適当なものを次のの中から一つ選び、記号で
答えなさい。

- ア 本を読んだ後、サツカーニのように言葉と自分とが向き合つて動きまわること。
- イ 本を読んだ後、そのままにしないで、三日後とか一ヶ月後に違う本も読むこと。
ちが
- ウ 本を読んだ後、読んだことを思い出し、その本をペラペラとめくつて見ること。
- エ 本を読んだ後、読んだ内容を読書ノートにつけておいて、それを読み返すこと。

問5

――⑤「そのとき、ほかの本もまぜてみましよう」とあります。なぜこうするのが良いのですか。その理由として最も適当なものを次のの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 好きな本だけでなく嫌いな本も何冊かまぜることで、眠くならずにたくさんの本が読めるようになるから。

イ 何冊もの本を読むことで、自分の興味が別の本へとつながり、新しい本の情報も好きになるかも知れないから。

ウ カブトムシの本だけでなく図書館で借りたほかの本もまぜることで、カブトムシ以外にも好きなものが増えるから。

エ 何冊もの本を読むことで、興味や関心が広がり、たくさん知識を子供のころに身につけることができるから。

問6

次の文の中で、本文の内容に合っているものには○、間違っているものには×をつけなさい。

- ア 何冊もの本を読み、関心のあるものをつなげることで、いろいろとイメージがふくらむようになる。
イ 本を読むコツは、役にたつ本や自分の情報レパートリーを増やす本を選ぶことである。
ウ 本を読むことは、情報編集で必要となる「つながりの発見」の力をきたえることになる。
エ 何冊もの本を同時に読み続いていると、自分にぴったり合う最良の一冊に出合うことができる。

第一回午前国語解答用紙

机の番号
受験番号
名前

【1】
問1 1 オ
2 エ
3 イ
各2 ⑥問2 首 ⑤
問3 エ ⑤問4 ウ ⑤
問5 エ ⑤

問6 自転車で高校へ通うには距離があるのに、電車を待つよりも早いという言葉を本気にしてしまう舞奈を信じられないかったから。

問7 同じ ⑤
問8 工 ⑤
問9 イ ⑤
こと。⑥

問1 a 想像	問2 ① イ	問3 目次	問4 (2) ウ	問5 イ ④	問6 マーキング読書法
b 通過	③	読書法	(1) 「読前」	目次	「読後」
c 翌日	工	マーキング読書法	マーキング読書法	マーキング読書法	マーキング読書法
d 試合	各4 ⑧				
e 熱中	各2 ⑩				

問6 ア
○
イ
×
ウ
○
エ
×
各2 ⑧